「親と子の関わり」

中津市長　奥塚　正典

先日、親子サッカー大会を見せてもらいました。日頃は応援に一生懸命のお父さん・お母さんがわが子の前で張り切る姿は、けがをしないようにと心配するほど熱が入り楽しそうです。また、子どものミュージカルの発表会もありました。お父さん・お母さんの眼差しは、まるで我がことのように真剣です。

何であれ、一心に取り組む子どものひたむきな姿はいつも大人に元気を与えてくれます。子どもを見守り、声援を送るお父さん・お母さんの姿はほほえましくかつての自分を見るような気がします。時には親の方がついつい熱が入りすぎますね。

「這えば立て、立てば歩めの親心」。親にとって、子どもの健やかな成長ほど強く願うものはありません。わが子が成長していく姿をしっかり見守り関わっていけるのは親にとって大きな喜びでしょう。子どもへの愛は無償のものです。目いっぱい愛情を注いであげてください。一方で、子どもの成長にあわせ、遠からず近からず適切な距離を置くことも実はとても大切だと言われます。ところがこれがなかなか難しいのです。

子どもは日々成長し自立しようとします。子どもの方が冷静に物事を見て大人が教えられることもあるでしょう。親の方が自分の育った時代を振り返り、その時の自分の親や周りの人との関係を思い出し子どもの将来を考え接すると、よりよい関わり方がとれるのかもしれません。不肖私、「あの時の父さんのアドバイスありがたかったよ」などと言われたことはありません。関わりが過ぎたのか、足りなかったのか、そもそもそれが親子ですかね。